

国際地震工学センターが「JAPAN コンストラクション国際賞」を受賞
～日本の知見を世界に広げる、国際人材育成プログラムが評価される～

国立研究開発法人建築研究所は、6月20日、ディザスター・マネジメント・ポリシー・プログラムが日本の知見を世界に広げる国際人材育成プログラムとして認められ、国土交通大臣より、第6回 JAPAN コンストラクション国際賞（先駆的事業活動部門）を受賞致しました。

日本の強みを発揮した建設プロジェクトや海外において先導的に活躍している中堅・中小建設関連企業、海外での「質の高いインフラ」に貢献する先駆的事業活動を表彰しています。



（写真）6月20日の表彰式において、国土交通大臣から芝崎国際地震工学センター長に表彰状が授与及び記念撮影の様子。

【表彰式当日に紹介された受賞理由】

ディザスター・マネジメント・ポリシー・プログラムは開発途上国の公務員、技術者、研究者等を対象に、政策研究大学院大学、建築研究所、土木研究所及び JICA が連携して創設した修士プログラム（建築研究所 2005 年～、土木研究所 2007 年～）です。研究開発事業や人材育成事業等の海外での「質の高いインフラ」に貢献する活動で、個別の建設プロジェクトにとどまらない戦略性を持った活動として評価されました。

（内容の問合せ先）

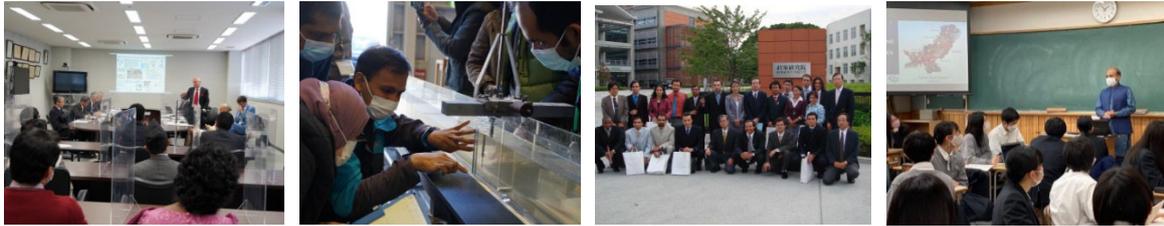
国立研究開発法人 建築研究所（つくば市立原1）
所 属 国際地震工学センター
職 名 管理室長
氏 名 山田高広
電 話 029-879-0678（直通）
e-mail yamada@kenken.go.jp

【資料】

ディザスター・マネジメント・ポリシー・プログラム

国土交通省 JAPAN コンストラクション国際賞に係るホームページより引用

URL : <https://www.mlit.go.jp/JCIA/award/6/specialprize/#02>



事業活動の概要

- 途上国では、地震や水災害に関する知識や技術を持つ技術者が少ない現状の中、日本では防災に関する優れたノウハウや技術が蓄積されている事から、途上国の防災分野の人材養成を目的に2005年より組織横断的なディザスター・マネジメント・ポリシー・プログラム（DMP）を実施。
- 途上国の公務員、技術者、研究者等を対象に1年間の講義や演習を通じ、防災政策に必要な知識や技術、日本の経験に基づく防災政策の理論と実践を享受すると共に、各国特有の問題に対して、習得した知識や技術、政策理論を適用させる能力を身につけるプログラムを通じた人材育成を提供しています。

データ

活動期間：2005年12月～ 継続中

応募者：国立大学法人 政策研究大学院大学、国立研究開発法人 建築研究所 国際地震工学センター（IISEE）、国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）、独立行政法人 国際協力機構

活動国：2005年の事業開始から66か国（地域）

活動歴：主たる拠点日本、66か国（地域）へ503名の修了生を輩出

（地震学127名、耐震工学143名、津波防災63名、水害リスクマネジメント170名）

評価のポイント

- 2005年のスタートから現在に至る迄、DMPの修了生は、世界66か国（地域）にまたがり、地震学が127名、耐震工学が143名、津波防災が63名、水災害リスクマネジメントが170名で、合計503名に上ります。現在途上国の防災専門家の大半は本DMPを受けた人たちであり、我が国のこの分野の技術の積み重ねが世界的にも認知されています。
- 修了生は、修了後、それぞれの国における建築物、インフラ、防災等に関連する行政機関、研究機関等において、枢要なポストで、政策立案、実施等に携わり、また専門技術者として、建築物やインフラの設計、検査、維持管理等にも従事し、さらに大学等の教育機関において、後進の指導に携わる者もいます。このような修了生の活躍が、各国における防災対策が大きく進展すると共に、日本の防災対策や関連技術等に対する評価を大きく高めています。